

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字 NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和4年10月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第989号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

OCTOBER 2022 NO.989

10



わたしも赤十字 赤十字ボランティア かしはらまさみ 榎原正巳さん【P.4でご紹介】

特集

骨髄・さい帯血の提供で助かる命…難病と闘う少年と両親の闘病記

息子が生きるチャンスをください

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL: 03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

骨髄・さい帯血の提供で助かる命…難病と闘う少年と両親の闘病記

息子が生きる チャンスをください

「外で思いっきり遊べるようになりたい!」。人一倍元気な男の子が、コロナ禍に血液の難病と診断されたことで病室の中だけで過ごした1年間。そしてようやく見えてきた「さい帯血移植」という希望。息子の命を救うために奮闘するご両親の思い、血液の難病を抱える子どもたちを取り巻く状況についてお父さんに話を伺いました。

ただでさえ苦しい闘病生活。 そこにコロナ禍の制約も加わって…

6歳になったばかりの田中謙智くんは今年7月末時点で入院生活1年となりました。病名は再生不良性貧血。小児の発症は100万人に2人という国が指定する難病です。

再生不良性貧血とは血液を作る造血幹細胞に異常が起き、赤血球や白血球、血小板が減少する病気です。貧血になりやすいほか、感染症への抵抗力が落ちる、出血が止まりにくいなどの症状があります。謙智くんは昨年2月に高熱、鼻血が止まらない症状から複数の検査を経て診断されました。「当初は免疫抑制療法を行っていましたが、期待する治療効果が得られなかったため、昨年10月末から健康な造血幹細胞を移植する手段として『骨髄移植』の検討を始めました。しかし私たち夫婦ともに息子と適合する骨髄の型ではないため親子間の骨髄移植はできず、非血縁者の骨髄ドナーも見つからない…親として苦しめてきた状況が続いていました」(父親・田中浩章さん)

謙智くんが闘病生活を送るのは名古屋の病院。子どもの専門治療ができる病院として入院を決めるとともに、付き添い看護をするために大阪の自宅を売却し、家族で名古屋に転居しました。

「再生不良性貧血は感染症に常に注意しなければいけない病気です。しかし幼い子どもは自分で手指消毒などの感染症対策ができないため、24時間目を離すことができません。しかも謙智が発症したのは、新型コロナウイルスの緊急事態宣言のさなかのこと。この1年間、謙智はほぼずっとクリーンルーム(無菌室病室)で過ごしてきました」

さらに謙智くんの腕は、静脈から心臓入り口部に至るカテーテルが常に挿入された状態です。

「毎日の投薬に加えて、血液の状態が悪いときには輸血にも頼りました。赤血球が極端に減って、唇が真っ白になったことも。輸血によってみるみる顔色がよくなっていく様子を見たときには、**献血をしてくださった見知らぬ方々の善意に感謝の気持ちでいっぱいになりました。**」



骨髄ドナー登録を訴える活動の一環として、浩章さんは闘病の様子をSNSで発信しています。動画ではおどけた表情も見せてくれる謙智くんですが、定期的に腰骨に太い注射を刺す骨髄検査を行うなど、過酷な闘病生活は1年以上にわたって続いています。浩章さんがSNSにアップした謙智くんの動画はこちらからご覧いただけます⇒



(←)謙智くんが発症する前の家族旅行の写真。「3人そろって青空の下を歩ける日がまたきっと来る。その希望を抱いて家族で病と闘っています」



(→)浩章さんの活動を通して交流が生まれたラグビーの木村貴大選手(モニターに映る)。リモートの画面越しでボールのパスレッスンをしてもらったことは、闘病生活中の数少ないうれしい思い出になりました

「あなたの決断を待つ人がいます」 誰かの命を救う、移植への協力

入院前はラグビースクールにも通うなど、謙智くんはとても活発な男の子。

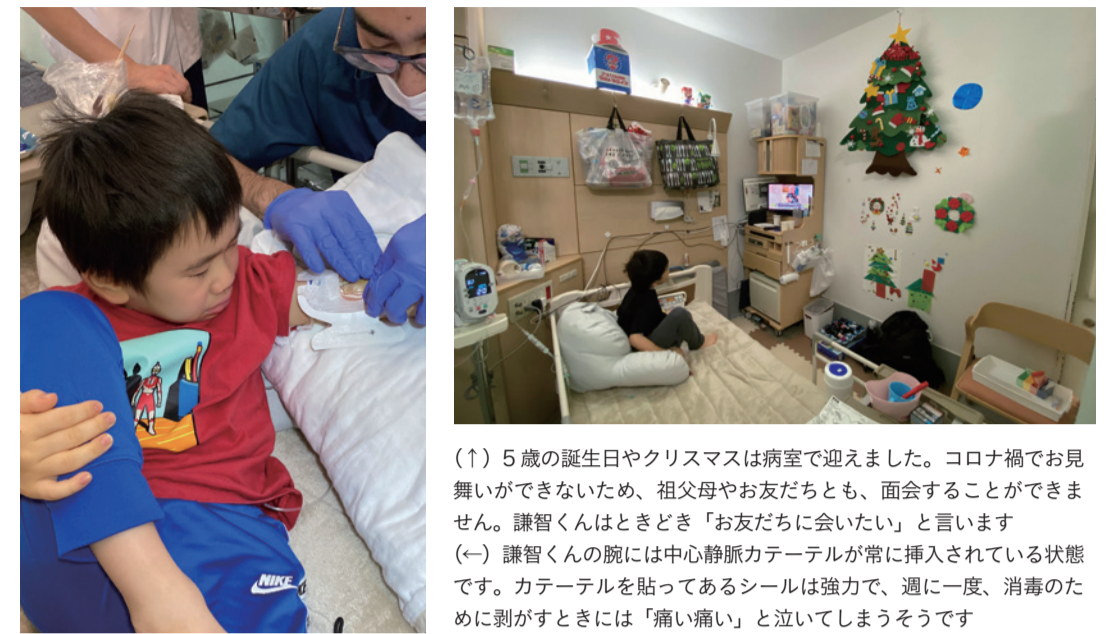
「体調が良いときにはベッドで『修行だ〜!』と言いながら腹筋をしたりと、元気すぎることも。しかしクリーンルームはカーテンで仕切られただけの4人部屋。同室の小児患者さんに迷惑にならないよう『やさしい声でね』と注意することもあります。親としてはしつけも大切ですが、自宅であれば存分に遊ばせてあげられるのに…と思うと切ない気持ちになります」

限られたスペースでの長い闘病生活によって謙智くんはもちろんのこと、付き添い看護をするご両親の身体的・精神的な疲労も限界にまで達していました。

「コロナ感染が拡大した今年1月ごろからは夫婦間の付き添い看護の交代がほぼできなくなり、病棟封鎖もあって、妻が24時間一歩も病院から出られなくなりました。親として子どものそばにいられることはうれしい反面、苦しむ子どもを目の前にして見守ることしかできないつらさもそこにはあります。さらに夜中に何度も点滴のアラートが鳴り、十分に眠ることもできない。食事は院内のコンビニ食や差し入れの冷凍食、シャワーは週3回・1回25分間まで。謙智から『お母さん泣いてた』と聞き、妻が倒れないことを祈るしかできない自分がふがいなくなりました」

謙智くんの骨髄ドナーが見つからない一方で、同じく造血幹細胞移植の手段として有効な「さい帯血移植」に希望の光が。謙智くんに見える「さい帯血」が見つかったのです。

「骨髄と同様に、さい帯(へその緒)と胎盤には造血幹細胞が含まれるため、息子のように移植を待つ患者にとって、さい帯血は希望そのもの。しかし、それを採取できる病院はまだ少ないと聞きます。その病院を選



(↑)5歳の誕生日やクリスマスは病室で迎えました。コロナ禍でお見舞いできないため、祖父母やお友だちとも、面会することができません。謙智くんはときどき「お友だちに会いたい」と言います(←)謙智くんの腕には中心静脈カテーテルが常に挿入されている状態です。カテーテルを貼ってあるシールは強力で、週に一度、消毒のために剥がすときには「痛い痛い」と泣いてしまうそうです

択し、さい帯血を提供してくれた方には感謝してもきれません」

謙智くんのように移植を待つ人々のために、浩章さんのドナー登録を呼びかける活動は続いています。中でも、さい帯血を提供できるのは出産タイミングのお母さんだけ。骨髄ドナーは満55歳で登録が取り消しとなることから、特に若い人たちの行動に期待を寄せています。

「当初は息子を救いたい一心で始めた活動でした。しかし病院に通う中で、同じように血液の病気と闘う子どもたちの声をカーテン越しにたくさん耳にしてきました。言葉をまだ知らない子が痛みを訴える泣き声、母親に助けを求める声、静かに痛みを耐えてすすり泣く声——。目の前に患者さんがいなくても、人間には想像力があります。そして若い人方には想像を行動に変える力があふれている。そう信じてこれからも発信を続けていきます。骨髄提供も、さい帯血提供も、血液の病気で苦しむ患者さんの命を救うのは若い人たちを中心とした多くの方々の方々の行動なのです」

プロラグビー選手 木村貴大さんインタビュー

オレンジのリストバンドをつけて、病気と闘う謙智くんを応援

9月4日は謙智くんの誕生日で、謙智くんとオンラインでお祝いしました。明るくてこんなにかわいい子が、なぜ病気に…と思わずにはいられません。

謙智くんのことは、知人が教えてくれました。浩章さん(謙智くんの父)がSNSなどで始めたドナー登録の呼び掛けをスポーツ選手として協力できないかと知人は僕に期待したようです。実は、僕の学生時代の親友が急性白血病を患って克服したことから、骨髄移植を必要とする病気には特別な思いを抱いていました。その友人、サッカー選手の早川史哉(アルビレックス新潟)は、著書の中で闘病中の不安や孤独を書き綴っていて、それを読んで「どうしてもっと支えてやれなかったのか」と激しく後悔して。その思いがあったので、自分から浩章さんにコンタクトを取り、協力してドナー登録の発信活動を始めました。

謙智くんは病気になる直前にラグビーを始めて、少しだけラグビーのことを知っています。なので、僕の試合の2日前に、謙智くん「オレンジのリストバンドをつけて闘ってくるから試合を見ていてね」と伝えました。僕が真剣に闘う姿で、謙智くんに元気を与えられたら、と。オレンジはドナー登録の冊子の色。謙智くんや血液の病気と闘う子どもたちのために身につけたリストバンドは、試合後に謙智くんにプレゼントしました。

僕らのようなスポーツ選手がこういった啓発活動をする、偽善だと言われ

ることがあります。でも、そんな声よりも、僕らのメッセージで実際に骨髄ドナー登録に興味を持ってくれる人が増えることの方が大事です。オレンジのリストバンドは反響が大きく、たくさんの方々のファンの方からドナーに登録したという声を聞きました。他のチームにもオレンジ色のシューズ紐で試合に出てくれる選手が現れて、ファンやメディアは注目してくれています。スポーツ選手には、こういう影響力がある。僕らの発信で、誰かの命が救われるかもしれない。そう考えて、試合にも啓発活動にも全力で臨んでいます。



●きむら・たかひろ
ラグビー・リーグワン1部 東京サンタリオン所属。28歳。日野レッドドルフィンズの木村貴大選手とともに社会貢献活動の団体「SportsCares」を立ち上げ、アスリートの力で社会を元気にする活動を推進している

命を救うボランティアにご協力を!

日赤が全国4カ所で運営する 「さい帯血バンク」

さい帯血バンクについて、詳しくはコチラ

全国6カ所のさい帯血バンクのうち、日赤は北海道・関東・近畿・九州の4つのブロック血液センターに同バンクを設置し、運営しています。さい帯血の提供には、全国に98ある提携採取施設での出産の他、各種条件があります。



献血ルームで受け付け中 「骨髄バンクドナー登録」

ドナー登録について、詳しくはコチラ

日赤は、公的機関「日本骨髄バンク」を支援し、献血ルームでのドナー登録の受け付け、登録者データ管理、HLA(ヒト白血球抗原)型検査や患者さんと適合するドナーの検索などを行っています。





令和4年8月3日からの大雨による災害続報 被災地で活動する赤十字ボランティアの声

山形県、新潟県、石川県、福井県、青森県の35市町村に災害救助法が適用。多くのボランティアが活動しています。



新潟県赤十字安全奉仕団
五泉市分団委員長
たじまたかこ
田島孝子さん

安全奉仕団は、赤十字救急法の講習を受けた救急員や、その指導員で構成されています。8月7日からの活動期間中は猛暑で、当初ボランティアセンターからは熱中症や体調不良の方のケアを依頼されました。しかし私たちは、他の被災地で熱中症の重症者を一人も出さない活動を経験していたので、**傷病者を待つよりも、予防活動を中心にしよう**と方針を変えました。まず、ボランティアを取りまとめる役目の方々に、熱中症の予防策と、熱中症初期の対応を具体的にお伝えし、活動開始前に意識を高めていただきました。そして安全奉仕団は、災害現場で活動するボランティアのもとに出向き、声を掛けながら健康観察をしました。

災害現場の見回りで、ボランティアに大きなけがや病気は発生しませんでした。被災された方の中にご自身のけがを家族にも言い出せず、悪化させ



新潟県関川村で被災者に衛生用品をお渡しする安全奉仕団(田島さん撮影)

てしまったケースに数件、遭遇しました。私たちの活動は被災者の「このころのケア」も兼ねていますから、被災された高齢者と話をしたところ、私たちが赤十字と知って「ちょっと見てもらいたい」と傷を見せられて。薬なども流されて消毒ができず、傷がひどく化膿したのを、家族にも黙っていたのです。それからは、見回りで新しい現場に行くと、その家の方に遠慮されても、消毒薬などの衛生用品をお渡ししました。声を発せられずに我慢している方々にも気付ける活動ができて、よかったです。



日赤石川県支部
防災ボランティア・リーダー
きたむらゆういち
北村裕一さん

赤十字の防災ボランティアとして、普段の防災セミナーでは応急手当てや災害時の対応を啓発しています。今回、私がボランティアとして水害の被害に遭った家の片付けに行ったとき、近くに住む一人暮らしの高齢者が私の着ているベストの赤十字マークを見て遠慮がちに声を掛けてきました。その方の家に行ったら、そこも水害でひどい状況になっている。でも、周りの家々も大変なんだからと2週間も我慢していた。**一人暮らしの高齢者などには、片付けボランティアの要請がどこまでできるかや、どこで物資がもらえるかなどの支援の情報が伝わりづらい**。その方のように、遠慮して「助けてほしい」と言えない、という場合もある。災害が起きた時、日頃の近所の会話がいかにか大切であるかを実感します。どこに、どのような人がいるか知っておくことが防災力(自助・共助)を高めるのです。



石川県小松市の災害ボランティアセンターで活動内容を確認する赤十字ボランティア

9月からは台風シーズンです。8月の水害は石川県全域で二度の大雨があって、小松市では復旧の活動が一からやり直しになり、被災者もボランティアも心が折れそうになりました。今までいろいろな災害現場を回ってきて、自然災害が起きると次に心配なのは労働災害。支援する側にもケアが必要になってきます。被災地では一人でも多くのボランティアを求めています。被災地でボランティアをしたいと思う方は、健康に気を付けつつ、汚れても大丈夫な格好で、ぜひ参加してもらえたらと思います。

【赤十字安全奉仕団】

日赤各支部で実施している各種講習(赤十字救急法など)を受講し、救急法救急員や指導員の資格を持つ人で組織される。普段は講習会などで心肺蘇生やAEDを使った一次救命処置、応急手当てなどを教える指導員やスタッフとして活動。災害発生時には被災地の支援活動に参加し、被災者やボランティアの健康を守る活動に参加するケースも増えている。

【赤十字防災ボランティア】

災害時に応急救護、復旧などの活動に協力するボランティア。本社および各支部では、防災ボランティアを養成するための研修会を随時開催しており、研修を受講された方は居住地域ごとに登録をする。防災ボランティアは、日頃から各地で開催される研修や訓練、イベントに参加してスキルアップを目指し、突然起きる災害に備えている。

この災害の赤十字ボランティアの活動状況 [9月12日現在] 延べ人数 342人

派遣元	活動人	活動場所	活動奉仕団等	活動内容	活動期間
秋田県支部	4人	秋田県支部	赤十字災害救護奉仕団	情報収集、救援物資輸送調整など	8/11~13,22
山形県支部	82人	山形県飯豊町	高島町赤十字奉仕団 飯豊町赤十字奉仕団	ボランティアセンター運営支援、被災住宅の片づけ	8/17~21,26~27 9/2~3
新潟県支部	137人	新潟県村上市 新潟県関川村	村上市赤十字奉仕団 赤十字安全奉仕団 など	炊き出し、熱中症・感染症予防の啓発	8/7~31
石川県支部	89人	石川県小松市 石川県白山市 石川県能美市	北陸大学学生赤十字奉仕団 能美市赤十字奉仕団 青年赤十字奉仕団など	ボランティアセンター運営支援、被災住宅の片づけ、ごみの分別	8/6~
福井県支部	30人	福井県南越前町	南越前町赤十字奉仕団	炊き出し	8/5~6

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で活動に参加する支援者がいます。

全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介いたします。



赤十字ボランティア
かしはらまさみ
梶原正巳さん

奈良県奈良市/63歳
奈良県青少年赤十字賛助奉仕団副委員長

ある日突然、災害は起きる。
「想像力」を持つことが
防災につながります

小学5年生で青少年赤十字(JRC)のトレセン*に参加したのが、赤十字との出会いです。他の加盟校の子らと楽しく交流をした当時のしおりやハンドブックは今でも宝物です。後に教員となり、赴任した小学校がJRC加盟校だったことから今度は指導者として夏のトレセン、年末の交流会など数々のJRC活動に携わってきました。トレセンで出会った他校の生徒の中には、私が教員を退職した今年年賀状を送り合っている子もいます。

阪神・淡路大震災の直後のニュース映像で、大規模火災のあった地区の焼け跡で家族の遺品を拾う女性の悲痛な姿を見て、災害について子どもたちと考えようと、授業で震災の報道番組を見せ、命を守ることに話合いました。今思えばそれが、私にとって最初の防災教育です。防災教育で危機意識を持ってもらうには工夫が必要です。教員時代、学校の避難訓練では、ペットボトルをハサミで刻み「割れたガラス」に見立てて廊下

にまき「足元をよく見て。窓ガラスの近くはとくに危険」と教えるなど、漠然と避難するのではなく、周囲をよく観察し危険を予測することを指導しました。現在は赤十字ボランティアとして防災教育事業の主任指導者を務め、県内の小中学生、教員や地域の方々にも、災害エスノグラフィーや災害図上訓練を行うなどの指導をしています。そこでも、いかに危機意識をもって自分ゴト化してもらうかに重きを置いています。過去の大きな災害の新聞記事を大切に保存しているのも、防災学習の中で災害発生をリアルに感じてもらうため。私自身、まだまだ学びながら、防災指導に力を注いでいきたいと思っています。

*青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

赤十字ボランティアへのご協力について詳しくは⇒



TOPICS

知っておきたいボランティアの準備と心構え

災害時のボランティア活動は無理なく、安全に！

災害時のボランティア活動は、ボランティアお一人お一人が安全で健康な状態で臨み、活動を自己完結させることが大切です。



挿絵：神奈川県赤十字国際奉仕団に所属する田中友美乃さん

日赤は、国内外での災害救護活動の知見などを生かし、災害時における安全なボランティア活動のために必要な準備や注意点について学べるPDF冊子「ボランティア、ご安全に！」を公開しました。

災害時のボランティア活動において、けがや病気を防ぐための対策が必要です。また、新型コロナウイルス感染症のまん延から、ボランティア自身の安全確保という課題があらためて浮き彫りになっています。充実した活動を行うために、安全や衛生について必要な準備をすること、心と体の健康を整えることが重要です。

活動前

最低限の衛生用品、応急手当て用品は持参しましょう

マスク、ハンドソープ、健康保険証は必携。日焼け止めや虫よけ、目薬、水やのどめめがあると便利です。
※活動内容やご自身の状況にあわせて必要なものを持参しましょう。

活動中

被災した建物に入る際のポイント

被災した建物は粉じんにより健康を害する可能性があるなど、安全ではないことを前提に活動します。活動中にけがをしたら直ちに清潔な水で洗います。



睡眠不足、水分不足による体調不良に注意

睡眠や水分、食事は十分にとりましょう。無理をして集中力が欠けると、活動中のけがや体調不良につながりやすくなります。また水分不足だけでなく睡眠不足も熱中症になる原因の1つです。

活動前、活動中、活動終了後

感染症にならない、広げないための対策を

被災地でボランティア活動を行う際は感染症にも注意が必要です。ハンドソープでの手洗いとアルコール等での手指消毒を徹底しましょう。



ボランティアの心構え、大切な知識が1冊に

冊子「ボランティア、ご安全に！」は、救護活動の経験が豊富な日赤の医師と共に作成し、赤十字ボランティアが挿絵を担当しました。

日赤のホームページで
ご覧いただけます。

ボランティア、ご安全に 検索



献血

まるわかり

辞典

「なるほど！」と思わずヒザを打つ
“献血にまつわる豆知識”を紹介。
第7回のテーマは、成分によって
違う血液の「保管温度」です。

vol.7



ほかん - おんど

【保管温度】

血液の細胞は、超デリケート！ 「血液製剤」は保管温度にハラハラ

血液中には生命維持に欠かせない大切な役割を担うさまざまな細胞があります。赤血球は全身に酸素を運ぶ、血小板は出血を止める、血漿は栄養成分の運搬など…。実はこれらの細胞は、種類によって寿命が異なり、人体から出て輸血用の血液製剤になると、それらの機能を維持するための最適な温度も変わります。以下は、血液製剤の種類別の最適温度と、その理由です。

【赤血球】さまざまな研究の末、溶血(赤血球細胞が破壊されること)せずに、最も活動を抑えられる2～6℃が適していると判明。“冬眠”させるイメージで、赤血球の活動を抑えているのです。

【血小板】最も常温に近い20～24℃で繊細に管理されています。他の成分と違い、これ以上低い温度で管理すると形態が変化してしまうからです。さらに、固まらないよう揺らし続ける“振とう”も必要です。血小板が「かさぶた」を作る成分の一つだと考えると、

輸血用血液製剤の種類(一部抜粋)

赤血球	保存温度：2～6℃ 有効期間：採血後21日間	出血および赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用されます。
血小板	保存温度：20～24℃ 有効期間：採血後4日間 ※要振とう	血小板数の減少またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。
血漿	保存温度：-20℃以下 有効期間：採血後1年間	複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。
全血	保存温度：2～6℃ 有効期間：採血後21日間	大量出血などすべての成分が不足する状態で、赤血球と血漿の同時補給を要する場合に使用されます。

理由をイメージしやすいかもしれません。

【血漿】-20℃以下で凍結保管されています。凍結して保管するのは、血漿中に含まれるたんぱく質の一つである血液凝固因子の活性を維持するためです。輸血に使用する際には、体温に近い37℃を保ちながら攪拌し、慎重に融解させます。

多くの試行錯誤と研究によってベストな状態で管理できるようになった輸血用の血液製剤。現在は、循環器(心臓や腎臓など)の負担を軽減するため、必要な成分だけを輸血する「成分輸血」が主流となりました。また、有効期間*を過ぎてしまったものは輸血には使えませんが、善意で集まった大切な血液ですので、血液製剤の品質確認のために行う試験検査や研究などに有効活用しています。

* 右上の表を参照

献血血液は、どうなるの？
「輸血用血液製剤が届けるまで」





全国各地 あなたの生活のすぐそばで 日本赤十字社の活動は行われています。

群馬県 大阪府 香川県

青少年赤十字創設100周年の夏「トレセン」が3年ぶりの開催!

コロナ禍で実施見送りが続いた青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(以下、トレセン)が、全国各地で開催。中には、3年ぶりの開催となった県もありました。



「困っている人に気づくには」など意見交換 救護倉庫で救護物資の説明や災害対応を学ぶ 1日目の座学を2日目のフィールドワークで実践

千葉県 岸田首相が会場を視察「九都県市合同防災訓練」

9月1日(防災の日)、各地で防災訓練が行われる中、千葉県直下地震を想定した第43回九都県市合同防災訓練が実施されました。



日赤救護所前で、応急救護訓練を視察する岸田首相(中央) 出典:官邸ホームページより

秋田県 闇を照らす竿燈に赤十字マーク 伝統の「竿燈まつり」に参加

日赤秋田県支部は、赤十字事業への理解促進を目的に、3年前から「秋田竿燈まつり」への参加を目指し、「日赤竿燈会」を結成して練習を重ねましたが、2年連続で祭は中止に。



竿燈を肩にのせる日赤職員

新潟県 地震が起きたら泣いちゃダメ? 子ども園で防災・減災学習会

9月1日の防災の日、日赤新潟県支部では青少年赤十字加盟の子ども園の園児を対象に、防災・減災学習会を開催。



園児からは「自分の命は自分で守る!」と頼もしい声も

神奈川県 「やさしい日本語」で 赤十字救急法の講習を開催

箱根町赤十字奉仕団所属の指導員が町内在住の外国籍の約20人を対象に赤十字救急法講習を行いました。



参加者からは「救急法の資格取得を目指したい」と意欲的な声も

埼玉県 熱意ある「学生選書ツアー」で 看護大学図書が人気に

日本赤十字看護大学さいたま看護学部では、学部内の図書館に所蔵する本を学生が選ぶ「学生選書ツアー」を実施しました。



選書コーナーに並ぶ本に添えられた選定者の推薦メッセージも好評

兵庫県 献血者から、闘病中の子どもたちに心温まるエール

兵庫県赤十字血液センターでは、県立子ども病院で闘病中の子どもたちから献血に対する感謝の言葉が寄せられたのをきっかけに、県内3献血ルーム共同で、同院に入院する子どもたちへメッセージカードを贈る企画を実施。



けんけつちゃんからメッセージカードを贈呈される森下原さん

高知県 「子どもボランティア隊」の初めての炊き出し訓練を支援

8月8日、香南市赤十字奉仕団は、香南市と社会福祉協議会が主催する「児童防災キャンプ」に協力し、市内の小中学生が登録する「子どもボランティア隊」に対して災害時の炊き出しを指導しました。



「ちょっと難しい」。経験のない耐熱袋での炊飯に戸惑う子ども

常任理事会開催報告

令和4年9月16日、令和4年度第5回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会では、将来の献血基盤の構築に向けた若年層への献血推進について審議し、令和4年8月3日からの大雨による災害にかかる日本赤十字社の対応、ウクライナ人道危機、「ACTION! 防災・減災」のPR動画について、それぞれ報告しました。



佐野常民生誕 200年 日本赤十字社を創った男の素顔

救えなかった悔しさを胸に秘め、人の命を救う仕組み作りを生涯をかけた日赤の創設者・佐野常民の実像に迫る企画展示を「赤十字情報プラザ」にて開催します。

●ご来館は予約制です。詳しくは⇒ 10月4日、WEBミュージアムでも公開!



Advertisement for 'Housai Kokutai 2022' in Hyogo-Kobe, featuring a QR code and details about disaster prevention activities.

赤十字はじめて物語 vol.7 社会福祉事業

児童の結核予防から始まった日赤の社会福祉事業

結核は、明治時代から昭和20年代まで「国民病」「亡国病」として恐れられていました。1907年にロンドンで開催された第8回赤十字国際会議での決議を受け、日赤では、多くの人々の命を奪った結核の予防・撲滅を目指して取り組みを開始。

先駆的だった、児童向けの避暑保養施設



天の橋立海岸の木陰でおやつを食べる子どもたち。その後、各地の日赤支部によって夏季児童保養所が開設されました。



「はじめて物語」WEBサイトでさらに詳しく⇒

「赤十字を応援!」プレゼント パートナー企業紹介 vol.30 株式会社シマヤ

笑顔をもたらす企業活動を目指して~寄付つき自動販売機を設置し、寄付活動をスタート!



地域住民の健康増進を目的に、少年野球大会と女子テニス大会を主催。地域に根差した歴史ある大会になっています

1890年、山口県周南市にてみその醸造業として創業し、1964年には日本初の和風粉末だし「だしの素」を世に送り出したシマヤ。自然の恵みを大切に、「天然・自然・安全」にこだわった商品開発によって、人々の健康で楽しい、豊かな食生活に貢献することを目指しています。

Advertisement for Shimaaya's 'Kani Zoni' product, featuring a product image and promotional text.

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS10月号を手に入れた場所(例/献血ルーム) ⑥10月号に関するご意見・ご感想 ※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします。

WORLD NEWS

アフガニスタン、パキスタンの人道危機



© パキスタン赤新月社

パキスタンの首都、イスラマバードの被害の様子。同国は国土の3分の1が水没した

人口の半分が飢え、国土の3分の1が水没… 光の当たらない「重大な人道危機」

気候変動が引き起こす干ばつや洪水に加え、ウクライナ紛争などの影響を受け、世界各地で食料危機と物価高騰が起こる中、さらなる危機へと追い込まれている人々があります。

あらゆる危機が同時発生 困窮を極めるアフガニスタン

この60年で最悪といわれる干ばつの影響により、人口の8割がその生計を農業に頼っているアフガニスタンでは、現在、2人に1人以上が極めて深刻な食料不足に直面している、と国連は推定しています。

そんなアフガニスタンを、さらなる自然災害が襲います。今年6月には大地震により6万世帯の家屋が倒壊・損壊し1000人以上の命が奪われ、また7～8月にかけて季節外れの大雨により大洪水が発生し、全34州のうち20州以上に甚大な被害をもたらしました。

アフガニスタンは従来、複合的な人道危機に直面していました。数十年にわたる紛争や相次ぐ自然災害、不十分な保健医療環境、新たな感染症の流行——食べ物と安全な場所を求め多くの避難民が発生し、多くの人々が困窮する中、昨年8月のタリバン政権発足に伴う国際支援の撤退や見合わせが、状況に拍車をかけました。長期化する複合的な人道危機において、影響を最も大きく受けるのが、特に女性や子ども、高齢者といった社会的に弱い立場にある人々です。

現在、同国で急性栄養失調状態にある5歳未満の子どもの数は320万人にのぼり、一刻

も早い治療を要するといわれている一方で、国際社会からの財政的・技術的支援により運営されていた2300の医療施設は閉鎖され、残った1200の施設は人手不足・資金不足に陥っています。このままの状況が続いた場合、1日あたり10人の母親、55人の新生児、112人の子どもが命を落としてしまうと予想されています。

洪水で家屋損壊170万棟以上 パキスタンは国家非常事態に

一方、アフガニスタンの隣国・パキスタンでは、今年6月以降の豪雨と洪水により、国土の3分の1以上が水没する危機的状況に見舞われています。9月中旬時点で1400人近くの方が亡くなり、3300万人以上が被災し、65万人以上が救援キャンプで生活していると推測されていますが、被災地への道路が寸断され全容がつかめていないため、さらに深刻な被害が生じていることが懸念されます。

ウクライナ紛争により世界の関心と支援がウクライナや周辺国に集まる一方で、その報道の陰には、長引く深刻な人道危機に陥っているアフガニスタンや、このたびの甚大な自然災害により「国家非常事態」を宣言したパキスタンのよ

うに、支援を必要とする人々があります。私たちは、今この瞬間も、命と健康、尊厳が脅かされているアフガニスタンやパキスタンの人々のことを決して忘れるわけにはいきません。

アフガニスタンの冬は厳しく、最も寒い地域では-27℃まで気温が下がることもあります。また170万棟以上の家屋が損壊したパキスタンでは、多くの人々が避難テントで冬を越さなければなりません。

両国において、現地赤新月社と国際赤十字は懸命な支援活動を行っており、日本赤十字社も資金援助を行っています。現地の人々に少しでも多くの支援を届けるため、海外救援金へのご協力をよろしくお願いいたします。



© IFRC Asia Pacific / Meer Abdullah Rasikh
地震の被災地で支援物資を受け取りに来た子どもに話しかけるアフガニスタン赤新月社のスタッフ

ご支援よろしくお願いたします

アフガニスタン人道危機救援金
受付期間:2023年3月31日(金)まで



2022年パキスタン洪水救援金
受付期間:2022年11月30日(水)まで



© Kathryn Cook-Pellegrin/ICRC

赤十字、 世界の「現場」から

supported by ICRC

国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、赤十字国際委員会(ICRC)、日赤の事業地で切り取られた1枚。知られざる世界の赤十字活動。

ウクライナ東部の都市ドニプロ。爆発で負傷した人の心肺蘇生トレーニングを受けるウクライナの救急隊員。ICRCはウクライナにおいて、紛争地域における救急法の講習を実施している。この講習では、ICRCの武器汚染チームが地雷や爆発物の調査や除去についても指導した。

主に紛争地域で活動するICRCは、危険地域における民間人と人道支援関係者のリスクを減らすため、地雷・爆発性戦争残存物に関する調査を行い、それらに対応する機材を現地に提供し、現地赤十字社と協力の上、地雷・爆発物に関するトレーニングも実施しています。